

## 新人薬剤師の不安の構造と自己教育力との関係

平島 豊,<sup>\*,a</sup> 伊藤満梨加,<sup>a</sup> 道志 勝,<sup>a</sup> 國井みどり,<sup>b</sup> 井手口直子<sup>c</sup>

## Relationship between the Structure of Anxiety and the Self-educational Ability in New Pharmacists

Yutaka HIRASHIMA,<sup>\*,a</sup> Marika ITO,<sup>a</sup> Masaru DOSHI,<sup>a</sup>  
Midori KUNII,<sup>b</sup> and Naoko IDEGUCHI<sup>c</sup>

<sup>a</sup>Physiological Chemistry, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Teikyo University, 1091-1 Sagamiko, Sagami-hara, Kanagawa 229-0195, Japan, <sup>b</sup>NMEC Laboratories, 4-33-28 Kanagawa-ku, Yokohama 221-0801, Japan, and <sup>c</sup>Pharmaceutical Communication, College of Pharmacy, Nihon University, 7-7-1 Narashinodai, Funabashi, Chiba 274-8555, Japan

(Received September 1, 2008; Accepted February 5, 2009)

The present study was conducted to evaluate the relationship between the structure of anxiety and the self-educational ability in new pharmacists. Ninety seven new pharmacists rated the 42 items of our anxiety scale toward working in the pharmacy in June and October, 2006 and 40 items of established self-educational ability scale in June, 2006. A factor analysis of anxiety scale indicated four factors including communication ability, professional technique of pharmacist, working condition, and self-respecting. From the evaluation of correlation between factors of anxiety scale and factors of self-educational ability scale, the anxiety concerning communication ability or the problem concerning self-respecting correlated significantly with the poorness of all four factors of self-educational ability such as the aim of self-growth and self-development, self-objectifying, practice and technique of study, and self-confidence and pride. However, working condition did not correlate all four factors. For 4 months, the anxiety of professional technique of pharmacist decreased significantly although three other factors did not indicated significant changes.

**Key words**—anxiety; self-educational ability; new pharmacist

## 緒 言

いかなる職種であっても、新たな職場で仕事を開始する際には、大きな心配・不安が伴う。今回の研究では薬局に新規に採用された社員を対象に、新人薬剤師の感じる心配・不安について、1) 評価のための新たな尺度の作成、2) 心配・不安の構造の解明、3) 心配・不安の経時的な変化を明らかにすることを目的とした。

少子・高齢化時代の到来に伴って、健康の問題への関心はこれまで以上に増加している。また、医療事故や薬害などの社会的問題の反省から、患者中心の安心で安全な医療が強く希求されるようになっていく。このような社会的な背景の中で医療法の改正

に伴い、薬剤師が医療の担い手として、明確に位置付けられた。また、調剤時の情報提供の義務化など、業務の充実が求められ、以前に増して、国民の薬剤師に対する期待が増加している。厚生労働省の2006年の「薬剤師の需要予測報告書」<sup>1)</sup>は将来の薬剤師過剰時代を予測しているが、その中で生き残るだけでなく、専門職としてのレベルを維持・亢進するため、日々の研鑽が重要である。このような状況に伴って、2006年度より薬学教育の6年制も始まった。この中で、長期臨床実習や、OSCE (Objective Structured Clinical Examination) が導入されることになっている。ほかの医療従事者の教育では、学生期間中に長期臨床実習を行っており、その際に生じる心配や不安を軽減するためのカリキュラムが取り入れられ、それに対する研究も積極的に行われている。また、看護師の卒後教育においては、新人看護師に対するプリセプターシップの導入がなされている。その中で、新人看護師は、内面的な不安か

<sup>a</sup>帝京大学薬学部生命薬学講座生理化学(I), <sup>b</sup>新医療総研, <sup>c</sup>日本大学薬学部ファーマシューティカルコミュニケーション学

\*e-mail: yhira@pharm.teikyo-u.ac.jp

ら、自信を失い、モチベーションが下がり、自分の課題や目標に積極的に取り組めなくなるという傾向があることが明らかにされている。<sup>2,3)</sup> 薬剤師にも、同様な不安が生じているものと考えられる。これまで、薬剤師は、実際の患者と接する臨床実習をほとんど経験しないまま薬剤師免許を取得し、臨床現場に立つという現実がある。そこで、実際に薬剤師が臨床現場に出たときに生じる心配や不安に対する調査・分析を試みることにした。また、反面では、新人薬剤師は、本来持っている力を発揮するために、自ら主体的に問いかけ、課題を発見し、考え、そして、その解決策を創造、開発し、実際に行動に移すことが強く求められる。このような自らを教育し、育てていく力を自己教育力というが、自己教育力の高いものは、心配・不安を解消する能力も高いことは予想される。言い換えれば、心配・不安の制御のためにも、自己教育力を高めることが期待される。<sup>4)</sup> したがって心配・不安と自己教育力との関係の解明も興味ある研究内容と思える。その観点から<sup>4)</sup> 薬剤師不安尺度と、同時に測定した自己教育力尺度との関係の検討も今回の研究の目的とした。

## 対象と方法

**1. 調査対象と時期** ㈱イオンウエルシアストアーズに協力依頼し、2006年度新入社員（薬剤師・薬学部卒）にアンケート調査を6月と10月の2回に渡って行った。新入社員対象の教育講義時に実施した。質問紙は記名式、自記式にて行い、講義終了後に配布し、翌日回収した。対象者は6月時点で合計97名（男子55名、女子42名）、10月時点で合計91名（男子54名、女子37名）であった。

## 2. 調査項目

**2-1. 薬剤師の不安に関するアンケート** 教育実習に臨む前の教職志望大学生の教育実習不安に関する尺度<sup>5)</sup>を参考に、われわれが新に作成した42項目のアンケートを使用した（Table 1）。42項目の回答について、「常に思う」「時々思う」「全く思わない」の順に2, 1, 0点を三件法で得点化した（Table 1）。

**2-2. 自己教育力測定尺度に関するアンケート** 梶田<sup>6)</sup>が作成し、西村ら<sup>2)</sup>が「学習の技能と基盤」と題した10項目を追加した自己教育力調査票を用いた（Table 2）。調査票は「成長・発達への志向」

「自己の対象化と統制」「学習の技能と基盤」「自身・プライド・安定性」の4因子40項目からなり、「はい」「いいえ」の二件法で回答を求め、「はい」=2点、「いいえ」=1点とし、逆転項目に関しては「はい」=1点、「いいえ」=2点とした。ポイント合計が高いものほど自己教育力が高いことを示している。

なお薬剤師の不安に関するアンケートは6月と10月に行われた。一方、自己教育力測定尺度に関するアンケートは6月に行われた。

## 3. 調査項目データの集計及び統計学的分析

データの集計及び分析は、SPSS for Windows (Ver. 12.01) を用いた。新たな薬剤師不安尺度を作成するために、因子分析を行い、各因子の下位尺度間の内的整合性を検討するために $\alpha$ 係数を求めた。また各因子間の相関を検討するため、Spearmanの順位相関係数を求めた。6月と10月の総スコア及び各因子のスコアの比較はカイ二乗検定を用いた。また、薬剤師不安尺度の各因子と自己教育力尺度の各因子間の相関はSpearmanの順位相関係数から求めた。 $p=0.05$ をもって有意水準とした。

## 結 果

6月に行った薬剤師の不安のアンケートのデータを基に主因子解による因子分析を行った結果、固有値の減衰状況から、4因子解を採用し、Varimax回転を行った。その因子負荷行列をTable 3に示した。因子負荷量0.5を目安に項目をまとめたが、第2因子、第4因子では項目数を確保するため、また他因子に関与する項目の因子負荷量を考慮し、0.5以下のものも採用し、4因子にまとめた（Table 3）。第1因子は、12項目で構成されており、因子の中では最も数が多い。この因子は、患者との係わりにおいて必要とされる「コミュニケーション能力」に対する不安とみられる。第2因子は、主に服薬指導時、また薬剤師業務時に生じる「薬剤師の専門性」に対する不安とみられる。第3因子は、仕事中の時間の使い方や患者への対応、先輩薬剤師との係わりなどに関する内容で、「職場環境上の問題」に対する不安とみられる。第4因子は、自身のプライドや自信を傷つけられることに対する不安として、「自尊心の問題」とした。

薬剤師不安尺度に相当する項目の平均値を算出

Table 1. Questionnaire Concerning Anxiety of Working in the Pharmacy

薬局で接する患者さんとのコミュニケーションについて下の項目について、あなた自身の現在の思いに当てはまりますか？  
該当する欄にチェックか○をしてください。

	常に思う (ポイント2)	時々思う (ポイント1)	全く思わない (ポイント0)
患者さんに冷たくことを言われるのではないかと不安がある			
服装、髪型や、アクセサリー、化粧などが患者さんにとって不快にならないか不安だ			
患者さんに受け入れてもらえるような対応ができるのか不安だ			
予想しなかった方向に患者さんとの話が進み、混乱するのではないかと不安である			
失礼な言葉遣いをしてしまわないかどうか心配だ			
服薬指導の仕方が未熟で患者さんに分かりづらいのではないかとと思う			
服薬指導に必要な知識が不足して話せないのではないかとと思う			
プランニングを十分にしないで患者さんの前に出てしまっているのではないかと			
薬以外の相談への係わり方に迷う			
挨拶がきちんとできているか不安である			
患者さんの気持ちをうまくとらえることができるか心配だ			
患者さんの問題解決のサポートができるか不安だ			
患者さんの個人的な思いを聞いてしまってよいのか不安がある			
患者さんに対する威厳をどうもてばよいかわからず混乱する			
一方的に話してしまっていないか不安だ			
先輩薬剤師にちゃんと接してもらえていないのではないかとと思う			
自分の服薬指導を皆にチェックされているのではないかと不安だ			
忙しすぎるので患者さんと話す時間がないのではと不安だ			
服薬指導記録（薬歴）の書き方がよく分からず不安だ			
笑顔をうまく作れているか不安である			
患者さんの状況に対して情報収集がうまくいくか不安			
手際よく投薬・説明ができず、もたもたしてしまっていないか心配である			
患者さんの前で話すこと自体が不安だ			
自分の服装を「医療の場にふさわしくない」と指摘されるのではないだろうか			
患者さんに対応をしつづけていると、体調が狂いそうである（神経衰弱・胃痛など）			
プライベートな時間が減り、逃げ出したりしたくなることもある			
分かりやすい表現で説明ができるか不安である			
患者さんのほうが薬のことをよく知っているので、説明に自信がなくなる			
変なことを言ってしまって、患者さんに馬鹿にされるのではないかと			
仕事をしていたりして病気をしたりするのではないかと			
先輩薬剤師と意見が食い違って衝突してしまうのではないかと			
苦手な患者さんがいて困る			
緊張してあがってしまい、服薬指導が進まなくなることがある			
患者さんがあれやこれやと雑談し、長くつかまりそうだ			
新人薬剤師ということで、患者さんが馬鹿にしてくれるかもしれない			
患者さんから予想外の質問がでたらパニックになるのではないかと			
服薬指導やコミュニケーションに役立つ良い資料教材などが無い気がする			
対応した患者さんがまたきてくれるかどうか不安			
内気なので患者さんとうまくコミュニケーションをとれていないのではと思う			
患者用のパンフレットや、服薬を助けるツールを患者さんにうまく説明できているか不安がある			
患者さんが自分の話をちゃんと理解してくれているか不安			
気が付かないうちに、患者さんへの対応に分け隔てをしまっているのではないかと			

Table 2. Questionnaire Concerning Self-educational Ability

以下の40個の項目を読んで、今のあなたにあてはまるかどうかを判断してください。  
Yes, No, どちらにもあてはまらないと思っても、より自分に近いと思えるほうに必ず○をしてください。

成長・発達への志向	1	自分でなければやれないことをやってみたい	YES	NO
	2	自分の能力を最大限伸ばすよういろいろ努力したい	YES	NO
	3	将来他の人から尊敬される人間になりたい	YES	NO
	4	たとえ認められなくても、自分の目標に向かって努力したい	YES	NO
	5	自分がやり始めたことは最後までやり遂げたい	YES	NO
	6	これからも良い仕事をし、多くの人に認められたい	YES	NO
	7※	人の一生は結局偶然のことで決まると思う	YES	NO
	8	これから専門的な資格や学位など取りたい	YES	NO
	9※	ぼんやりと何もせずに過ごしてしまうことが多い	YES	NO
	10※	いったい何のために勉強するのだろうかといやになることがある	YES	NO
自己の対象化と統制	11	自分のよくないところを自分で直すよういつも心がけている	YES	NO
	12	嫌になったときでも、もうちょっとだけ、もうちょっとだけと頑張ろうとする	YES	NO
	13	自分の良いところと悪いところがよくわかっている	YES	NO
	14	他の人から欠点を指摘されると、自分でも考えてみようとする	YES	NO
	15	腹が立ってもひどいことを言ったりしないように注意している	YES	NO
	16	できるだけ自分を抑えて他のひとに合わせようとしている	YES	NO
	17	自分の考えや行動を批判されても腹をたてない	YES	NO
	18※	ちょっといやなことがあるとすぐ不機嫌になる	YES	NO
	19※	疲れているときには何もしたくない	YES	NO
	20※	テレビを見てしまって勉強がやれないことが多い	YES	NO
学習の技能と基盤	21	他の人の話を聞いたり本を読むとき、時々内容を振り返りまとめてみる習慣がある	YES	NO
	22	自分に必要な文献や記録を分類・整理しておく習慣がある	YES	NO
	23	考えを深めたり、広げたりするのに話し合いや討議を大切にしている	YES	NO
	24	自己評価するときには、自分の目標に照らして行っている	YES	NO
	25	考えていることを筋道をたてて書いたり、伝えたりできる	YES	NO
	26	取り組みたいことによって、それにあった学習方法や手続きを選ぶことができる	YES	NO
	27※	たとえ話などを用いて人に分かりやすく説明することが苦手である	YES	NO
	28	自分の調べたいことがあるときに図書館を利用している	YES	NO
	29	自分の調べたいことについて文献検索していくことができる	YES	NO
	30※	分からないことがあるとすぐ人に聞く傾向がある	YES	NO
自信プライド安定性	31	今の自分が幸福だと思う	YES	NO
	32	生まれ変わるとしたら、やはり今の自分に生まれたい	YES	NO
	33	自分のやることに自信を持っているほうだと思う	YES	NO
	34	今の自分に満足している	YES	NO
	35※	今のままの自分ではいけないと思うことがある	YES	NO
	36	他の人に馬鹿にされるのは、我慢できない	YES	NO
	37※	自分のことを恥ずかしいと思うことがある	YES	NO
	38※	何をやってもだめだと思う	YES	NO
	39	自分にもいろいろとりえがあると思う	YES	NO
	40※	時々自分自身がいやになる	YES	NO

YES：ポイント1，NO：ポイント0，※は逆転項目であるのでYES：ポイント0，NO：ポイント1。

Table 3. Results of Factor Analysis after Varimax Rotation Concerning Anxiety Scale in New Pharmacists

	因 子				共通性
	F1	F2	F3	F4	
【第1因子「コミュニケーション能力」】					
11. 患者さんの気持ちをうまくとらえることができるか心配だ	0.80	0.11	0.12	-0.39	0.55
3. 患者さんに受け入れてもらえるような対応ができるのか不安だ	0.73	0.15	-0.12	-0.10	0.50
5. 失礼な言葉遣いをしてしまわないかどうか心配だ	0.66	-0.02	0.02	-0.11	0.36
4. 予想しなかった方向に患者さんとの話が進み、混乱するのではないかと不安である	0.58	0.00	-0.10	0.05	0.32
23. 患者さんの前で話すこと自体が不安だ	0.57	0.07	-0.32	0.34	0.67
21. 患者さんの状況に対して情報収集がうまくいくか不安	0.57	0.04	0.08	-0.02	0.42
1. 患者さんに冷たくことを言われるのではないかと不安がある	0.56	-0.04	0.04	0.17	0.48
12. 患者さんの問題解決のサポートができるか不安だ	0.56	0.38	0.06	-0.22	0.53
10. 挨拶がきちんとできているか不安である	0.55	0.07	0.14	-0.10	0.38
24. 自分の服装を「医療の場にふさわしくない」と指摘されるのではないだろうか	0.51	-0.13	0.32	-0.08	0.35
25. 患者さんと対応をしつづけていると、体調が狂いそうである（神経衰弱・胃痛など）	0.49	-0.20	0.09	0.38	0.55
39. 内気なので患者さんとうまくコミュニケーションをとれていないのではと思う	0.43	0.04	-0.18	0.42	0.61
【第2因子「薬剤師の専門性」】					
7. 服薬指導に必要な知識が不足して話せないのではないかと思う	-0.02	0.74	-0.16	0.23	0.66
6. 服薬指導の仕方が未熟で患者さんに分かりづらいのではないかと思う	0.18	0.70	-0.17	0.03	0.63
8. プランニングを十分にしないで患者さんの前にでてしまっているのではないか	-0.01	0.67	0.19	-0.10	0.41
19. 服薬指導記録（薬歴）の書き方がよく分からず不安だ	-0.07	0.50	0.19	-0.01	0.26
22. 手際よく投薬・説明ができず、もたもたしてしまっていないか心配である	0.31	0.46	-0.06	0.07	0.54
40. 患者用のパンフレットや、服薬を助けるツールを患者さんにうまく説明できているか不安がある	0.16	0.44	0.08	0.11	0.44
38. 対応した患者さんがまたきてくれるかどうか不安	0.19	0.33	0.26	0.10	0.49
【第3因子「職場環境上の問題」】					
32. 苦手な患者さんがいて困る	0.27	-0.31	0.68	0.09	0.64
31. 先輩薬剤師と意見が食い違って衝突してしまうのではないか	0.02	0.06	0.59	-0.02	0.35
18. いそがし過ぎるので患者さんと話す時間がないのではと不安だ	-0.11	0.23	0.58	-0.21	0.26
34. 患者さんがあれやこれやと雑談し、長くつかまりそうだ	-0.03	-0.10	0.53	0.11	0.29
42. 気が付かないうちに、患者さんへの対応に分け隔てをしまっているのではないか	0.10	0.10	0.52	0.23	0.51
17. 自分の服薬指導を皆にチェックされているのではないかと不安だ	-0.05	0.25	0.51	0.19	0.46
16. 先輩薬剤師にちゃんと接してもらえていないのではないかと思う	-0.23	0.19	0.36	0.27	0.32
【第4因子「自尊心の問題」】					
37. 服薬指導やコミュニケーションに役立つ良い資料教材などが無い気がする	-0.34	0.01	0.01	0.66	0.19
35. 新人薬剤師ということで、患者さんが馬鹿にしてくるかもしれない	0.01	0.02	0.25	0.56	0.45
28. 患者さんのほうが薬のことをよく知っているので、説明に自信がなくなる	-0.04	0.10	0.09	0.46	0.31
26. プライベートな時間が減り、逃げ出したりしたくなることもある	0.18	-0.07	0.11	0.45	0.34
29. 変なことを言ってしまうと、患者さんに馬鹿にされるのではないか	0.30	0.05	0.10	0.39	0.49

因子抽出法：主因子法，回転法：Kaiserの正規化を伴うプロマックス法。

し、「コミュニケーション能力」，「薬剤師の専門性」，「職場環境上の問題」，「自尊心の問題」の下位尺度の得点は各々， $11.66 \pm 5.13$ ， $8.15 \pm 0.56$ ， $4.24 \pm 2.97$ ， $4.78 \pm 2.62$ （平均±標準偏差）であった。内的整合性を検討するために各下位尺度の $\alpha$ 係数を算出したところ、「コミュニケーション能力」で $\alpha=0.88$ ，

「薬剤師の専門性」で $\alpha=0.83$ ，「職場環境上の問題」で $\alpha=0.78$ ，「自尊心の問題」で $\alpha=0.78$ と十分な値が得られた。薬剤師不安の下位尺度間相関をTable 4に示す。4つの下位尺度は互いに有意な正の相関を示した。

Table 5に，薬剤師不安尺度と自己教育力尺度の

Table 4. Means and  $\alpha$ -Coefficients of Factors and Correlation Coefficients among Factors in Pharmacist Anxiety Scale

不安尺度名 (項目数)	平均値 (S.D.)	$\alpha$ 係数	相 関 係 数			
			1)	2)	3)	4)
1) コミュニケーション能力 (n=7)	11.66 (5.13)	0.884	1	0.674**	0.373**	0.686**
2) 薬剤師の専門性 (n=12)	8.15 (2.56)	0.826	0.674**	1	0.266**	0.544**
3) 職場環境上の問題 (n=7)	4.24 (2.97)	0.784	0.373**	0.266**	1	0.486**
4) 自尊心の問題 (n=5)	4.78 (2.62)	0.782	0.686**	0.544**	0.486**	1

\*  $p < 0.05$ , \*\*  $p < 0.01$ .

Table 5. Correlation between Anxiety Scale and Self-educational Ability Scale

不安尺度名 (項目数)	相 関 係 数			
	自 己 教 育 力 尺 度			
	成長発達への志向	自己の対象化と統制	学習の技能と基盤	自信プライド安定性
1) コミュニケーション能力 (n=12)	-0.238*	-0.382**	-0.501**	-0.311**
2) 薬剤師の専門性 (n=7)	-0.083	-0.124	-0.397**	-0.271**
3) 職場環境上の問題 (n=7)	-0.072	-0.144	-0.109	-0.075
4) 自尊心の問題	-0.277**	0.271**	0.388**	-0.323**

\*  $p < 0.05$ , \*\*  $p < 0.01$ .

相関係数をまとめた。「コミュニケーション能力」に関する不安では、自己教育力との間に「成長発達への志向」( $r = -0.238$ )、「自己の対象化と統制」( $r = -0.382$ )、「学習の技能と基盤」( $r = -0.501$ )、「自信プライド安定性」( $r = -0.311$ )に対して有意な負の相関がみられた。「薬剤師の専門性」に関する不安では、「学習の技能と基盤」( $r = -0.397$ )、「自信プライド安定性」( $r = -0.271$ )と、有意な負の相関がみられた。「自尊心の問題」に関する不安では、「成長発達への志向」( $r = -0.277$ )、「自己の対象化と統制」( $r = 0.271$ )、「学習の技能と基盤」( $r = 0.388$ )、「自信プライド安定性」( $r = -0.323$ )と、有意な正又は負の相関がみられた。「職場環境上の問題」の不安のみは、自己教育力との間に相関関係は認められなかった。

6月と10月の間の薬剤師不安尺度を比較したが「総合」スコア、「コミュニケーション能力」スコア、「職場環境上の問題」スコア、「自尊心の問題」スコアには統計学的な有意差を認めなかったが、「コミュニケーション能力」の不安に関しては4ヵ月の間に低下の傾向を示し( $p = 0.151$ )、「薬剤師の専門性」に関する不安のみが明らかな統計学的な有意差を示した( $p < 0.001$ )。

## 考 察

薬剤師の心配・不安に関する尺度はこれまで報告されておらず、今回の研究の第一の目的は、薬剤師の心配・不安の評価のための新たな尺度を作成することであった。心配・不安に関するアンケートの因子分析の結果から、新人薬剤師の一般的にみられる心配・不安が、少なくとも「コミュニケーション能力」、「薬剤師の専門性」、「職場環境上の問題」、「自尊心の問題」の4つの潜在的因子から構成されていることが分かった。今回の研究では、これまでに報告された不安に関する尺度<sup>7)</sup>などとの相関の検討が不十分であり、この尺度が薬剤師不安尺度として確立されるには、さらなる検討を要すると考えられる。これまで、教育実習生の不安に関する尺度の報告が多い。<sup>5,8-10)</sup>大野木・宮川は教育実習に臨む前の教職志望大学生の心配・不安に関する尺度を検討しているが、彼らも教職志望大学生の心配・不安が「授業実践力」、「児童・生徒関係」、「体調」、「身だしなみ」の4つの潜在因子より構成されているとしている。<sup>5)</sup>「授業実践力」と「児童・生徒関係」は、まさに「薬剤師の専門性」と「コミュニケーション能力」に対応しており、児童・生徒と患者という対象の違いはあるものの、仕事上の技術と対象とのコ

コミュニケーションに関する能力であり、共通の不安の潜在因子と言える。ほかの「職場環境上の問題」、「自尊心の問題」に関しては薬剤師に特異的な潜在因子なのかどうかは、ほかの職種の心配・不安に関する報告が少なく、今後の検討が待たれる。また、坂田らが報告している教育実習ストレス尺度<sup>10)</sup>の「基本的作業」、「実習業務」、「対児童・生徒」下位尺度も、大野木・宮川が作成した教育実習不安尺度の「授業実践力」と「児童・生徒関係」<sup>9)</sup>と相似しており、実習期間初期の不安を測定する尺度としている。教育実習不安尺度と直接的な比較はできないが、今回の薬剤師不安尺度は薬剤師の心配・不安を測定する尺度としての妥当性を示唆している。また、坂田らはさらに、「対教員」、「対実習生」の下位尺度を加えることにより、実習終了までの変動し続ける多様な心理的ストレス反応も測定し得るとしている。<sup>10)</sup> 心理的ストレスの変動に伴い、実習期間中に数回行われたこの尺度値は単純な減少ではなく、変動したことを示している。この下位尺度はまさに、今回の「職場環境上の問題」に相同する因子であり、今回の尺度は、坂田らが力説する、<sup>10)</sup> 初期の不安に加え、その後の心理的ストレスをも含めた不安尺度となり得る可能性がある。

6月から10月の期間の薬剤師不安尺度の変化を観察したが、「自尊心の問題」、「職場環境上の問題」に関する不安は変わっていないが、「薬剤師の専門性」に関する不安は激減した。また「コミュニケーション能力」に関する不安も減少の傾向を示した。4ヵ月と言う短期間ではあるが、実際に投薬や服薬指導などを経験したことが、自信となったことが想像され、患者との接触によって、コミュニケーション能力に関する不安も減じたものと思われる。

薬剤師不安尺度と自己教育力尺度の相関に関して、個々の因子間の関係のみをみると、「コミュニケーション能力」不安のみが、自己教育力の潜在因子である「成長発達への志向」「自己の対象化と統制」、「学習の技能と基盤」、「自信・プライド・安定性」のすべての項目に負の相関がみられた。このことは自己教育力の未熟さによって、最も顕著に現れる心配・不安は、コミュニケーションに関する心配・不安であるのかもしれない。久保田らも看護学科、理学療法学科、作業療法学科、社会福祉学科の将来の医療従事者を目指して学んでいる学生を対象

に自己学習能力とコミュニケーション能力の関係を解析しているが、今回と全く同様な結果を得ている。つまり、自己学習で学習の仕方に困らない学生は、コミュニケーション量が多く、対人関係の能力にも優れているとしている。<sup>11)</sup> 「薬剤師の専門性」に対する不安と、負の有意な相関がみられたのは、4因子中「学習の技能と基盤」、「自信プライド安定性」の2因子であった。「学習の技能と基盤」では、客観的な根拠、また議論を通して、論理的に考えを深めたり、広げたりする手段や、また論理的に表現できる能力が身に付いているかどうかを問うている。服薬指導などのスキルとしては基本的に求められる能力である。このような技術の未熟さは、直接に「薬剤師の専門性」の不安につながっている可能性が示唆される。「自信プライド安定性」の低下は、薬剤師としてやっていくための内的、情緒的、人格的な適性と言う意味で「薬剤師の専門性」に関する心配・不安として表現されているものと思われる。「職場環境上の問題」に関する不安に関しては、興味あることに、すべての自己教育力の因子と有意な相関を示さなかった。「職場環境上の問題」は「コミュニケーション能力」や「薬剤師の専門性」などとは異なり、新たな職場に伴う、すべての薬剤師の普遍的な心配・不安であり、自己教育力が強く反映する不安ではないことを示している。一方、不安尺度因子である「自尊心の問題」と、自己教育力尺度因子の「成長発達への志向」や「自信プライド安定性」の間では負の相関がみられた。成長へのやる気を示す「成長発達への志向」因子が低いと、自然と自身の自尊心は低下し、自己の存在意義に関する不安も大きくなると思われる。「自尊心の問題」と「自信・プライド・安定性」は内容的には近い関係の因子であり、「自信・プライド・安定性」が低下すると、それに伴い自尊心も傷つけられるという不安も大きくなるのだろう。また「自尊心の問題」と「自己の対象化と統制」や「学習の技能と基盤」との間には逆に正の相関がみられた。「自己の対象化と統制」が高いということは、自己の客観視や論理的評価ができるということである。自己評価が冷静にできるということで、現状の未熟さを正しく認識し、そのことが、「自尊心の問題」の不安を募らせるという関係が想像される。「学習の技能と基盤」の因子に関しては、論理的な学習法が身に付いてい

ることは、最終的には不安を解消するために重要な能力ではあるが、理想の薬剤師像を描くことができ、そして現状の自分自身を客観的に比較できるため、新人薬剤師の「自尊心の問題」の不安を募らせることに働いている可能性がある。

今回の薬剤師不安尺度は主に調剤薬局・ドラッグストアの新人薬剤師を対象とした研究であり、比較的重篤な患者を対象とする病院勤務の新人薬剤師が同様な不安構造を有しているのかどうか、また不安構造と自己教育力の関係が同様であるかなど、多くの検討の余地を残している。今後の研究において、量的に解析できる尺度を用いることにより、薬剤師共通の心配・不安の構造、あるいは各分野特有の薬剤師の心配・不安の構造を科学的に分析できるものと信じる。

**謝辞** 本研究を行うに当たり、アンケートにご協力頂いた㈱イオンウエルシアストアーズに心より感謝申し上げます。

#### REFERENCES

- 1) Koseiroudousho, Yakuzashimondai Kentou-kai, 2002.
- 2) Nishimura C., Okuno S., Kobayashi Y., Nakajima S., Komatsu R., *Nihonsekijyujii Kanbukangofukenkyusho Kiyō*, **10**, 1–24 (1995).
- 3) Toyohara N., *Kanjamanzoku*, **3**, 1–3 (1999).
- 4) Lennings C. J., *Pers. Individ. Dif.*, **16**, 745–750 (1994).
- 5) Ohnogi O., Miyakawa J., *Jpn. J. Educ. Psychol.*, **44**, 454–462 (1996).
- 6) Kajita E., “Jikokyouiku eno Kyouiku,” (1985).
- 7) Okabayashi N., Seiwa H., *Hiroshimadaigaku Sougoukagakubu Kiyō (III)*, **15**, 1–9 (1991).
- 8) Davis J. B., *High Sch. J.*, **73**, 240–244 (1990).
- 9) MacDonald C. J., *Alberta J. Educ. Res.*, **39**, 407–418 (1993).
- 10) Sakata S., Otoyama W., Furuya T., *Jpn. J. Educ. Psychol.*, **47**, 335–345 (1999).
- 11) Kubota S., Asahi M., Mizuno T., Fujinawa O., Taniai Y., Uematsu M., Inoue K., Maruoka H., Isozaki K., Hara K., Nakayama A., Mizorogi T., Ehara K., Hosoda K., Ando Y., *Bull. Saitama Pref. Univ.*, **2**, 161–168 (2000).